

# 平成29年度「海の作文コンクール」入賞作品

金賞（国土交通省神戸運輸監理部長賞） 1点

## 「海からの贈り物」

淡路市立 学習小学校 6年 的崎 文香

私は、毎日淡路島の海を見て育ち、遊ぶのも海、好きな食べ物も魚、海が私の生活の一部になっています。ふとそんなことを考えていると、海からたくさんの思い出やおいしい魚など、たくさんの海からの贈り物を手にしていることに気づきました。

私は一歳の夏に海水浴に初めてお父さんに連れて行ってもらい、ゴムボートに乗せてもらったそうです。普通は海が怖くて泣く子が多いのですが、私は波に揺れるゴムボートが心地良かったのか、怖がることもなくはしゃぎ、少しするとすやすやと寝ていたそうです。そんな小さい頃から、私は海に慣れ親しみ、海がとても好きでした。

ちょうど離乳食が始まった頃、私はおじいさんが釣ってくる新鮮な魚を食べ始めていたそうです。新鮮なおいしい魚に、私はすっかり魚好きになっていました。それ以来ずっと魚が大好きで、私にはこの頃すでに、魚を食べる食育は、ばっちり身につけていました。

私が食べるのはおじいさんの釣ってきた魚や地元の魚屋さんで買ってきた魚や漁師さんからもらった魚なので、全て地魚です。

春の楽しみは、潮干狩りです。私はアサリしか取ったことがないのですが、お父さんは、誰も掘らないような大きな石がある所を掘って、私の手のひらよりも大きな大貝を取ってくれます。家に帰るとすぐにでもアサリや大貝を食べたいのですが、一晩か二晩バケツに潮をくんできた泥はきをさせてから、酒蒸しにして食べます。私の大好物です。

夏にはスズキやエビ、ハモなど、よく漁師さんからもらって食べます。ハモは骨が多いのですが、おじいさんが骨切りをして天ぷらや湯引きにしてくれます。新鮮

な旬の魚は、とてもおいしいです。

ただ、私は潮干狩りを楽しんだり、新鮮な魚を食べるだけではありません。淡路島の海を守ることも考えています。

私たちは5年生の時にEMだんごを作って漁師さんに船にのせてもらい、海に放流しました。そうすることで、私たちの大切な海の環境を良くして、たくさんの魚が住みやすくなり、漁師さんにとっても良い漁場となることを学びました。

また、地元の漁師さんの協力でヒラメの稚魚放流も体験することができました。漁師さんたちは、ただ魚を捕るだけでなく、魚が減らないようにと稚魚を放流して、育てる漁業も行っているということも学びました。

私たちの大切な海を守ることで、海は私たちにたくさんの思い出やおいしい魚を贈り続けてくれます。

こんな素晴らしい海からの贈り物を私はずっと手に入れたいと思っています。だから、これからも海の事を学び、もっともっと海を大切にしたいと、この作文を書くことでより一層思いが強くなりました。

## 銀賞（神戸海事広報協会会長賞） 3点

### 「僕の好きな神戸港」

高砂市立 米田小学校 6年 山下 奏都

神戸の街は神戸港と共に発展してきたことは言うまでもない。そんな神戸港は2017年、開港150周年を迎えた。僕はこの夏休みに神戸港に出かけました。何度も来たことがあるけど、やっぱり大好きな場所で、見ているだけで、なんだか大きな気持ちをもてます。その神戸港の歴史を振り返って調べてみようと思いました。

さかのぼると古代には天然の良港という条件を生かし、「務古水門」「大輪田の泊」中国大陸や朝鮮半島の港と交流していました。平安時代には「経ヶ島」を築造。国際貿易の拠点として発展しました。室町・江戸時代には「兵庫の津」と呼ばれ、国内の海運の要衝として重要な港となり、特に江戸時代には多くの廻船で賑わいました。神戸港の開港は慶應3年（1868）開港と共に多くの外国人や西洋文化が流れ込み、現在の神戸の礎となりました。外国の資本のみならず、神戸の発展を予見した国内財閥も参入、さらに造船所など近代産業の黎明を切り開いた企業も神戸から生まれています。神戸の発展を予見した会社もすごいけど、神戸には街も人も活気にあふれ、発展する力があつたのだと感じました。開港と共に文化面でも新たな広がりを見せ、牛肉は神戸名物となりました。また、日本一の工業都市、大阪に近い地の利用を活かすだけでなく、製鉄や造船など重工産業が育ち、明治末期には香港や上海をしのぐ東洋最大の港になりました。僕はこの頃の神戸港の勢いはとてつもなく、今よりもっと人が集まっていたと思う。急激に利益をあげた会社の苦労話や、人と人との交流の心温まる話もあつたのだろうと思います。戦時中は空襲被害を受けたが、復興もめざましく、戦前と同じようにアジアのマザーポートとしての地位に君臨。その後もコンテナ化に対応した摩耶埠頭が竣立、コンテナ取扱量が重量ベースで世界一となりました。神戸港が発展し続けたのも、神戸港に未来や夢を乗せて人が働いていたからだと感じました。人々が生き生きとしていたに違いないと思います。

ところが平成7年に阪神・淡路大震災で大打撃を受け、取扱貨物量は激減します。僕は震災の時は生まれていないけど、学校の授業でどんなにひどい状況だっ

たか知ってます。こんなに悲惨な状況でも復興へと立ち上がった神戸の力はとてもすごいと思いました。神戸空港ができたり、国際コンテナ戦略港湾に選定されたり、客船誘致に積極的に取り組み多くのクルーズ客船が寄港しています。打撃を受けても、それをばねに奮い立っている港もそう多くはないと思います。

「港なくして神戸なし」という言葉はまさしくそう思うし、港から多くの工業、文化が行き交い、そこには必ず人々色んな思いが詰まっているからこそ、発展してると思いました。

僕が思う神戸港は昔は賑わいがたえず、盛り上がりや止まらないぐらいで、かなり昔から世界と繋がっている港だと感じます。どんな時代になっても、神戸港を魅力に思う人がいて、夢をもった人達が集い、育ち、歴史を作り、今の神戸港があるのだと思いました。僕はまだ遊びに行つて港を眺めるだけですが、この港で働き、この港の発展の一員になりたいと考えています。

自分が生まれ育つた兵庫の港がこんなに歴史があり、どんな被害や災害にあつても発展が続く神戸港を、僕は誇りに思います。僕が他県や外国の人と話す機会があつたなら「すごい港があるよ。港の周りも、昔と今が混ざつたオシャレな街並みだし、一度遊びに行つてみて。」と自信をもって言えます。神戸港はこれからも神戸の街と共に未来の航海を続けていくと強く思います。

海はなくてはならないです。僕たちの生活を支え、国の経済を担ってくれている貿易や、海外の文化も入ってます。世界と繋がる大切なパイプの一つです。魚もいます。魚の水揚げも生活に大きく関わっています。もっと僕が海のことを知り、知らない人に海が担っている仕事や未来を伝え、興味を持ってもらえるようになれば、海や船、海に住む生物の未来が変わるかも知れません。今僕ができること、一人でも多くの人に興味をもってもらえるように海のことを伝えていこうと思います。

## 「ウミガメの放流会に参加して」

高砂市立 米田小学校 5年 黒橋 海光

ぼくは、いところ一緒に静岡県にキャンプに行きました。このキャンプ場の近くには、大きな風力発電の風車がたくさん建っています。風が強い時はくるくる回って、ブーンブーンと音がうるさいです。しかし、このキャンプ場では、その風力発電による電気を使用しています。自然のエネルギーを利用する風力発電は風がなくなる心配もなく、二酸化炭素も出さないの地球温暖化を防ぐ環境に優しい上、安全と言われています。なので、将来ぼく達も、太陽光、風力、水力などの自然エネルギーをもっと利用する必要があると思います。

このキャンプ場の目の前には海が広がっていて、日本でも数少ないアカウミガメの産卵地です。僕は楽しみにしていたウミガメの放流会に参加しました。ふ化した子ガメの体調は約5センチ。カブトムシぐらいの大きさの小さな子ガメです。参加者は全員一列に並んで、一斉に子ガメを放します。子ガメの長旅のスタートです。手足をバタバタ、くるくる回して一步一步海に向かって歩く姿は、とてもかわいく感動でした。体が小さいので、小さな砂の山をこえるのも大変そうでした。ぼくは心の中で、「がんばれ」「元気でな」と応援していました。次に日本に戻ってくるのは約20年後。しかし、親ガメになって産卵のために帰ってくるカメは、五千匹に一匹だそうです。人間が捨てたゴミで海は汚れてしまいます。ポリ袋やペットボトルを飲みこんでカメは死んでしまいます。砂丘を汚すと、卵を生む場所が失われてしまいます。海岸を美しく保つことは、ウミガメの命を助けることにつながるのです。

ぼくは、ウミガメの放流会に参加して、命や自然の大切さを学びました。20年後ぼくが大人になって、自分の子供とまた放流会に来ることがあれば、その子ガメはぼくが放したカメの子供かもしれません。ウミガメが絶滅しないように、これからも生命がつながって行くように、豊かな自然をぼく達の手で守っていきたいです。みんなが地球のことを考え、海の生き物を守るためにこれからも一人ひとりの努力が大事だと思います。

## 「漁業体験」

淡路市立 学習小学校 4年 大草 湊都

ぼくの住んでいる場所は淡路島で、海に囲まれた島で育ちました。おばあちゃんのお家は、港の近くにあります。お父さんは漁しをしていて、夏になると魚をとりにいって、冬になるとのりのようしょくの仕事をしています。小学校2年生の時にのりの見学に行ったことがあります。のりを作る工場に行きました。中にはのりを作っている機かいが何台もありました。はじめにのりの話を聞いてから外に出て、出来る前ののりを見せてもらいました。それは、どろどろだったのに一しゅんでパリパリののりに変化することが、すごいと思いました。のりを海から引き上げて機かいでやいてかわかして、どうやってのりができるのか分かりました。のりを作る所を見れたし、出来たてのりも、もらってうれしかったです。ふだん家にいっばいのりがあるのて食べているけど、その時にたべたのりが味はついていなかったけど一番おいしかったです。ようち園のレモン組の時には、かりやビーチであみを上げる体験をしたことが一度だけあります。あみを上げて引っぱる時がつらかったです。終わってから、魚をもらえたのでうれしかったです。

お父さんが「国が海をきれいにする運動を始めてからきれいにはなったけど、豊かにはなっていない。」と教えてくれました。そのためのが色落ちするようになりました。のりは黒くなかったらお金になりません。その話を聞いて、海はきれいにしたいけど、魚がとれなくなったり、売れなくなったらこまるなと思いました。

淡路島は、海に近いからようち園や小学校のじゅ業で漁業の体験があります。淡路島ならでわで、きちょうな体験をすることが出来たよかったです。国の人色いろなことをしてくれているから、海はきれいなじょうたいを保っています。これからも、魚が住みやすいかんきょうを作っていきたいです。

## 銅賞（神戸海事広報協会会長賞） 6点

### 「五島の海と神戸の海」

西宮市立 甲子園浜小学校 4年 長清 和奏

私は毎年、夏休みに長さきの五島列島に行きます。

そこには、自然の広い海があります。すきとおったきれいな海で、お婆さんの家からは徒歩二分ほどのところでつりができます。

そこには小鯛などの魚がたくさん泳いでいてたくさん魚がつかれます。

とくにアジが山のようにいて、百ぴき以上つったこともありました。

そのアジはお婆さんが、さしみやてんぷらにしてくれます。

でも、自然の海でせいびされていず、台風などの災害があると大へんだそうです。

一方、神戸の海は、きっちりせいびされていて、とっていもあるので、あるていど波はたかくなってもだいじょうぶです。

でも、うめたて地がふえているので、そのぶん海がせまくなっていることは少し悲しいと思います。

でも、人が多くにぎやかだという所はいいと思います。

次に私は、船もちがうなと思いました。

長さきの海には、フェリー、漁をする船などをよく見かけたけれど、神戸では、客船や貨物船やコンテナ船などの船が多いと社会で習っているので、それも神戸と長さきの海のちがいの一つだと思いました。

私は、長さきの海に忘れられない思い出があります。それは「花火大会」です。

私は、お婆さんのやっているカフェ、「カフェ・チャイ」で、若松港の近くから、花火を見ていました。

赤や緑や青の花火はとてもきれいでした。

私の妹は、こわがって泣いていたけれど、私にとっては、最高の思い出になったと思います。

私は長さきと神戸、2つの海を知っていますが、きっちりしっかりせいびされて安全な神戸の海も、あまり人の手が加えられていない長さきの海も大好きです。

## 「一生の思い出の旅」

西宮市立 甲子園浜小学校 4年 富岡 晋伍

ぼくは、四年になって、ひさしぶりに船に乗りました。その船の名前は、ファンタジー号という名前でした。ファンタジーという言葉は、ぼくにとってカッコイイと思いました。理由は、ファンタジーとは空想、幼想と言う意味だからです。中に入ると広くて、ソファーもありました。全員乗ると、船が出船しました。ぼくは、船よいするか心配な気持ちと、船に乗れるうれしい気もちが、まぎってへんな気持ちでした。船は、じしんのようにゆれていました。そして係の人がでてきて、この船に乗るときの注意じこうや、救命具の説明を聞きました。そして話が終わると各クラスでわかれて、自由行動をしていいことになりました。

「やったあ。」

と心の中で思いました。外にでると風がきもちく、海の色は、きれいなあい色で、遠くむこうには小さなビルがならんではんしゃして、ダイヤモンドのようにかがやいているのを見ると、

「大きな都会だな。」

とあらためて思いました。他には、近くだと大きくて、きれいな赤色ポートタワーが、赤えんぴつのしんくらい小さく、すごくぼやけて見えて、よく見ないと、気がつかないほどでした。友達に教えてみると、

「あんなに小さく見えるのか。」

とおどろいたような声でいいました。そして大きくて、きれいな赤の橋の下をとおりました。魚がいるのかと見てみましたが、魚どころか他の生き物もいるけはいがありませんでした。前にいなかに行った時には、たくさん魚が泳いでいたのを思いだすと、

「都会には、あまり生き物が住んでいないんだな。」

と思いました。船が通ったあとには水しぶきがたって、海みたいになみがたっていました。2組の自由時間がおわると、四十分くらいまで、なにもすることがなかったけど、

「船だから、こうゆうことがあってもいいか。」

と思いました。そして、最初の船に乗った所にもどってきました。おりるとき船になれていたのので、すこしふらつきました。船はあまり乗る機会がないのでいい思い出になりました。

## 「淡路島の海は最高！！」

淡路市立 学習小学校 6年 安東 優貴子

私は、淡路島の海が大好きです。その理由はたくさんあるので、そのうちの特に好きなところを三つ紹介します。

一つ目の理由は、景色がきれいなことです。

例えば、夏の昼なら、太陽の光で海面が波打つたびにかがやき、とてもきれいです。夜になれば、月の明かりが海面に映り、道ができます。

この景色を見れば落ちつけます。また、「明日もがんばろう!!」と思えます。

二つ目の理由は、初めて見る生き物や見知った生き物、かわいい生き物など、とても多くの生き物とふれあえることです。

最近、家族でよく海に行って、つりをしたり、泳いだりします。特によくいくところは、「たがの浜」というところです。その浜では、ハゼや小さなカレイ、体長がわずか1センチメートルほどの小さくてとてもかわいいフグの群れなどとふれあえます。前は、なんとタコに会いました。そのタコは、お父さんが網ですくってつかまえてくれました。今、他につったり網でつかまえたりした小魚たち、タコのエサの小さなカニたちといっしょに飼っています。

ここにすれば、家族みんなで、思いっきり楽しめるので良いと思います。

三つ目の理由は、食べ物が新鮮で、とてもおいしいことです。

私は、一年と半年ほど前まで、海の無い長野県に住んでいました。そのころ食べていた海産物は、決してまずくはなかったけれど、ここほど新鮮な物は少なかったです。また、値段も高く、手に入る種類も多くはありませんでした。そのため、給食で出てくる回数が少なく、海産物が苦手になりました。でも、ここでは、スーパーで売っているものも、給食に出てくるものも、とてもおいしくて、種類も豊富なので、海産物が好きになりました。特に好きになったのがわかめです。なぜなら、引っこして来る前まで、食感があまり好きではありませんでした。でも、淡路島のわかめは一枚一枚が分厚くてプリプリしていて、私もおいしく食べれる食感だったので、たくさん食べれるようになりました。

このように。淡路島の海が自然とふれあうことの楽しさを教えてくれました。また、家族みんなで遊んだり、話したりするきっかけをくれたり、私の苦手の克服を手伝ってくれました。

だから、私は淡路島の海が「大好き」です。

## 「帆船を初めて見て」

淡路市立 学習小学校 4年 三木 善瑛

7月16日に神戸帆船フェスティバルに行った。ぼくは、帆船を見たことがなかったからどんな船が見られるのかワクワクした。帆船は、海王丸、みらいへ、パラダ・コリアナで、練習船は、銀河丸、青雲丸、大成丸が寄港していた。船内一ぱん公開していたが、受付時間より少し遅くとう着したから、帆船には乗れず、残念だった。練習船の三せきは見学でき、船内には多くの部屋があり、色々な機械や海図を見せてもらって勉強になった。

「海王丸」は、「日本丸」と姉妹船の練習船だ。ふだんは横浜港に停泊していて、どの帆船よりも大きくてカッコよかった。「みらいへ」は、一ぱん人が乗船でき、帆船による航海を通じて、船や自然、歴史や文化を体験しながら学ぶことができる。「パラダ」は、ロシアの練習船で、船体が黒くて海ぞく船みたいだと思った。「コリアナ」は、四本マストのスクーナー型のかん国ゆいーのセイルトレーニングシップで、一番小さな帆船だった。今回見ることができなかったが、「日本丸」は、日本最大、世界でも最大級の四本マストバーク型帆船だ。帆を広げた美しいすがたから「太平洋の白鳥」とよばれている。「銀河丸」は、様々な運行システムを持つ練習船だ。トイレは立ち入り禁止だが、急に行きたくなったので、実習生に特別に案内してもらった。水を流すレバーが手で回すようになって、めずらしいレバーだと思った。「青雲丸」は、海軍の担い手となる実習生の訓練をする練習船だ。ふだん運動をする場所に、救命ボートがてん示されていた。定員は25人で、実さい中へ入ったらせまく感じ、本当に25人も乗れるのかと思った。「大成丸」は、最もコンパクトな最新の内航用練習船だ。ドアロックがボタン式になっていて、今までは、かぎ式だったが、ボタン番号でロック・解除できるから、便利になっていておどろいた。

セイルドリルを見ることができた。これは、岸ぺきに停泊したまま帆（セイル）を広げ、またたむ訓練を着岸中に行うことだ。約百人の実習生が、マストに登ってひもをほどいてゆっくりと帆を広げていくから、一時間位かかっていた。海面からメインマスト上まで約50メートルある。そんな高い所で作業するのは、こわくないのかと思った。だんだんと白い帆が現れて、全部はられた時は、すごいはく力があつた。

「海王丸」は、帆をはった時どうどうとしていて、海の王という名前がピッタリで、本当にかっこいい帆船だと思った。スタンプラリーで九つスタンプをおしてまわったが、今回見学できなかった船がまだまだある。また機会があれば、「日

本丸」や他の船を見学したい。青い広い海で、白い帆をあげた帆船を見てみたいから、帆船に乗って、旅に出てみたいと思った。

## 「夏休みイルカウォッチングに参加して」

高砂市立 米田小学校 5年 河野 陸斗

ぼくは、今年の夏休みに海浜水族園の「イルカウォッチング」に参加しました。イルカが浅瀬の所まできてくれたので、イルカとお写真がとれました。あと、イルカを海で直接さわったりしました。ぼくは、あんな近くでイルカを見られたのが初めてというか、逆にあんなところにイルカがふつうに泳いでいるところが少し気になっちゃったけど、ぼく以外の家族やたくさんの人がいてすごく人気でした。飼育員さんがイルカの特長などを教えてくれました。

次にぼくが参加したものは、海浜水族園で行われていた須磨ドルフィンコーストプロジェクト 2017 というものです。海水浴の所で行われていて、有名な須磨海岸の東端でやっていました。ぼくの参加した「イルカウォッチング」の他に、イルカにエサをあげたり、イルカトレーナー体験もしていました。でもどちらの体験も超人気だったのでボクは参加をすることはできませんでした。これらを体験できる目的は、イルカを自然の海で自由に泳がせ、ゴミの入った海でイルカを泳がせないことで飼育環境がアップさせるためや、海岸の環境をも守るためだそうです。ぼくが見たイルカは2頭です。メスのジーナ、もう1匹のメスのケイトです。飼育員さんがふえをふくとジャンプしたり、気持ちよさそうな感じで海を泳ぎまわっていました。ぼくは、イルカは頭が良くてやさしそうな感じがしました。周りの人たちやぼくに手をふってくれたりもしていました。それから、いるかの鳴く声も始めて聞きました。他に、イルカにお魚のエサをあげてイルカはすごくおいしそうに食べていました。次からは、地域の人たちが結成した「イルカ見守り隊」の海岸清掃活動や、イルカの行動についての研究も続けられるそうです。「イルカウォッチング」に参加をしたことで、もっと海の生物やイルカのことをくわしく調べてみたいなあと思いました。それから、すごくイルカのことを好きになったと思いましたイルカや魚が安心して泳げ、ゴミも全くない安全な海になってほしいなあと思いました。

## 「うみときす」

姫路市立 余部小学校 1年 井戸 柊吏

ぼくのかぞくはまいとしなつになると、うみにおよぎにいきます。キレイなあさせのうみをさがしてみつけた、とっとりけんのにしわきかいがんにいきます。このうみはおきのほうへいってもすごくあさくて、ぼくでもうきわなしでひとりであそべるからだいすきです。でも、なみがたかいときは、うみのおじさんが、

「ロープのむこうにはいかないでください、

あおいうきわのひとあぶないよ。」

とマイクをつかってちゅういされます。あぶなくないようにとおくにはいかないで、なみであそべるところをさがしてぼくはなみにぶつかってのってあそびまわります。

すると、ことしはうみのなかにおよいでいるさかながたくさんいることに気づきました。

「なんかさかなめっちゃおるで！」

とぼくがなんかいもさけんでいたら、

「そのさかなはなあ、きすのこどもや」

と、じいじがおしえてくれました。ぼくは、さかなにきづいてから、きになってつかまえたくて、なんかいもなんかいものぞいてさいしょはバケツですくおうとがんばりました。でもきすはすごいはやいスピードでにげまわります。くやしくて、つぎは、ばいてんであみをかってうみのなかにあみをいれてきすをおいかけてすくおうとしたけど、うみのみずのなかでは、あみがすごくおもくてうまいうごかせなかった。するとじいじが、

「そんなあみなんかでつかまるかいな、こどものきすやし、ヤスでついてやないとつかまえられんわ。」

と、ゆわれてあみはしっぱいしたなあとおもいました。いとこのりおんとあみではさみうちをしてもきすはぜんぜんあみにはいってくれない。かえってきてからおしごとだったパパにはなしをしたらつぎのちようびにパパとまたうみにいいくときにつかまえられるように、さくせんをたてようとはなしをしました。きょうはきすをつかまえられなかったけど、たいふうがちかづいてきているからなみがたかくて、ぼくはなみにむかってとびこんでなみにもまれてあそんだりボディーボードでなみがくるのをまってシューっとなみにのってながされてみたり、いちにちじゅう

なみにあそんでもらいました。

かいはんのはしのほうには、いわのほらあながあってトンネルのようです。ここはすごくふかくっていわがあってあぶない。きよねんはおぼれそうになったから、うきわとウォーターシューズをはいてとつげきしてみた。そうするとびっくり。スズメバチのすがてんじょうにあってハチがいてあぶないからすぐにテントにかえってきました。ことしのうみはきすにあえてうれしかった。ハチでトンネルであそべなかったけど、なみはさいこうにたのしかったしぼくはやっぱりうみがだいすきです。